

『オリエンテーリング』 安井孝男

「オリエンテーリング'78年度」。これは、ぼくが参加した唯一のオリエンテーリングだが一年以上も前のこととなると、物覚えのいい(?)ぼくとしても、かなりの部分を忘れてしまった様である。まあ、思い出したことをポツリ、ポツリと書いてみることにしよう。

まず思い出されるのは、電車の中のことである。電車の中で数人と一緒になった。あれは、志波、金井、渡辺だったと思うが定かではない。遅れたと思っていたら役員の志波がいたので安心したことを覚えている。そして次は、駅名は忘れたが、たしか乗り換えの駅だったと思う。そこで西尾工人を見かけたが、来ていなかったのだった。みんなでおかしいな?と思っていたのだが、後に聞いたところによると、電車が遅れていたのだから乗れなかったとのことであった。そこで「カネユー」と笑われてしまったのだった。中心になつて笑ったのは吉本さんだ、たと思うが、これも定かではない。

とにかくこうして江ノ島の駅に着いたのだった。当日は、サイクリング日和であった。食料などを買い込み準備ができた。

例のごとく出走20分前に問題が配られる。人の言ったのを聞いてか、又は、自分で読んだか忘れたが、問題を知らずがビ

った。何と時間を測る問題があったのだ。なぜガビったか
というと、ぼくは時計を持って来なかったのである。例のごと
く山口が「マップホラー」と言っていたんじゃないかな？ そう
そう、山口も秒針のない時計だったのでガビっていた。

さて、問題を受取り、どのようにして作戦を立てようかと思
い、て敵々をながめると、マップにせ、せと点を書いているど
はないか。みんな頭いい！ぼくも真似してせ、せと地図工に書
き込んだ。ぼくのコースは、ないたい東半分だったと思う。

とくして、遅れて来る人はいつでもいるもので、あのときは
確が鈴木さん（道夫さん）が遅れて来た。しかし、今年（'79
年度）の斉藤、名取ほどではなく、鈴木さんが来たときには、
まだ相当の入が残っていた。

さて、ぼくの番が来て、いざ出陣。まずは江ノ島へ。確がそ
とで、小島さんに会った。例のごとく、もう勝ったようなホホ
エミを浮かべていたんじゃないかな。前にも書いた通り、か
なりの部分を忘れてしまっているのだから、ぼくの先入観によって
多少事実とは異なっていることを書くことは大いに考えられた。

江ノ島を出ると道路を東にとり海岸辺りを走った。初めのこ
ろは、敵に会うと相手は自分よりはるかに多くのポイントを目
けているような気がしてしまっていた。そうしてポイント

を回っているうちに、ぼくにもドツボルとまがまたのたつた。

あれは、とにかく住宅地だつたと思う。そこから細い地を通り、どこかへ抜けるはずだつたのだが、その道がま、たぐわらなかつたのである。誰か来ないかなと思いつつ捜したが見つからず、確か結局はわかりやすい道を大回りしたと思う。

中盤戦はよく覚えていない。とにかく、自転車をホッポウかしてかいて畑の中を走って行ったり、他人の家へ通じる道を飛ばして走ったり、幽霊の出さうなトンネルを通ったりしたのは覚えていますが、順番がゴチャゴチャでち、ともわからん。ただ問題の地図が25000分の1だつたので、いつも50000分の1の地図を見慣れているせいか、一つか二つぐらいのポイントをとばして走ってしまつて残念に思つたことは印象に残っている。

さて、そろそろ終盤戦、time limitを考へて走らなければならぬといふことをぼくの腹が教えてくれている。あれはどこだつただろうか、とにかく山の中をまたドツ、てしまつた。というのは、一本しかない鉛筆を落してしまつたのだつた。そう言う、その鉛筆は、江ノ島の駅前のお店でもらつたものだつた。さて、そこは山の中、店はない(困つたが、まあ、安針だつたかな、その差へ行つてみようと思つて行つてみると天の助け。電気工事?のおじさん達がいらっしゃるではありませんか、そこで一言「あの〜、何か書くもの貸していただけませんか、おじもど、

て来ますので。」とボールペンを借りて安針の墓へと登り、行
たのでした。借りたものは貸してくれない人に返さなければいけ
ないし、返すと書くものがなくなるまじと思っ、て登、ていたので
した。すると道は登山道々々、クな道で、岩の山を歩くというじ
あいだったりで、もちろん自転車には下で待、ていてもらいま
した。そして墓に着いてみるといい道が付いていて、車が上がっ
てきているではありませんか。そこでこの墓に果る前のポイン
トで曾我部主人に会、たことを思い出し、曾我部主人が、安針
の墓の下りは氣を付けろよと言、ていたのを思い出して、曾我
部主人は、よくあの道を自転車を担いでおりたなと感心しな
のでした。

さて、ボールペンを返さなければならぬかと心配するま
下、ていったのでした。唯一の希望は、ボールペンを貸して
くれた人は、そろそろ仕事を終えて引退しているころ石という
ことでした。ジャー。天はよくに身方してくれて、おじさん
達り、もう跡形もなくなる、ていたのでした。オジサン、ボール
ペンを返せなくてゴメンナサイ。

さて、そこを離れて次のポイントへ行くべきか帰るべきかの
決断のとき。疲れてきているにもかかわらず、100点の誘惑に
負けて(?)一路大楠山小頂をわがしたのでした。なんと、実は、
十分に行ける自信がその時にはあ、たのでした。(後の悲しみも

知らないで) 走り出してわかったことは、ぼくは、もう疲れ
を知らない子供ではないというでした。後のほうになると、少
し急な坂では、押しの連続。ゴルフ場でゴルフを楽しむ人を尻
目に、こちらはヒューヒューゼーゼー。最後には、自転車をホッポ
ラカしてついに山頂へ。景色を見るまもなくポイントへ。と行
ってみると、恐ろしく拍子抜けとの強じった変な気分。というの
は、その問題が、自動販売機で売っているものは? というもの
だ、たのだが、その答が、いつも見慣れた「ビール」だ、た
からである。

休む暇もなく、一目散に山を駆けおりたのだ、た。やはり下
りは楽しかった。山を下る途中、鈴木さんに会った。確か何かの
背色の夕とりのポイントのところだったと思う。鈴木さんは、こ
れからあの大楠山へ登ると言うのだ、た。「もう時間がありま
せんよ」と言ったら、どうしても100点のところを回りた人
だよ、とか何とか言ったと思う。

さて、ふもとの大きな道へ出て大進撃開始と思、たら、腹の
カラータイマーが赤ってピカピカしているのに気づき、ここで何
が腹へ入れておかないと途中で北尾ると思、たぼくは、店に何
がいいかなと考えていた。すると時計が目に入、てガッピーと
自動販売機でおしるこを買、て食べたのだった。

さてこれからは、ほんとうの大進撃。逗子の駅を目指してま

「しぐら。とにかく長い道のりだった。逗子の町の中へ入ると、あつた！駅へ行ってみると逗子は逗子でも違う駅。あれ駅がなつりーとまた走り出すと、もうゴールした連中がウロウロしている。でも駅は見えない。駅はどこだ。駅はどこだ〜つや、と発見。役員の高橋がいる。やつとゴール。確か2分ぐらいの遅刻だったと思うが定かではない。

ホッと一息。新島さんと鈴本（真人）とで、鈴本のライバルのマクドナルドに行ったと思うが、そこへハンバーガーを食べに行つた。またならしいカツウでキレイな店へズカズカ入つていった。

食べ終つて出てくると、また帰つてこない人がいるという。誰かというと、例の鈴本さんであつた。かなり待つて鈴本さん登場。やつと表彰式。下位のほうから表彰される。ここで同点が出た。何位だったかは忘れたが、賞品は知らずおれなままジャンケンした。あれは、小島さんと土村さんだったと思う。結果は、ジャンケンでは小島さんが負けたのだが、賞品は小島さんのほうがよかつたので、また例の小島さんの勝ち誇つた顔が出た。

さて、3位まで来た。ぼくの名は出ない。ということは……しかし、最後まで残らず、2位であつた。1位は地元の大塚さんであつた。ぼくの賞品は、セファールのインフレーター。

しかし、小りに売りつけ、金に変わった。こうして無事、オリエンテーリングは終、スッポであった。

あとで聞いたところによると、採点ミスがあり、ほんとうの1位はぼくであった。まあ、これで満足々々。

『テレビゲーム合宿』

さて、それから、あの有名な「テレビゲーム合宿」が始まったのでした。まず、大塚さんの家に自転車置き場を造ってもらい、そこでテレビゲームが出たのでした。大塚さん宅で少しくつろいで、当日の宿泊場所である、吉本さん宅へ行くと、まあ、テレビゲームが待っていたのでした。そう言えば、夕飯には、友いへん *nich* なものを出していたので感激々々。

さて、明日を楽しみながら寝たのです。ナヘンケヤッタ、実は、みんな疲れて、明日は何が走らなくて済むようなことが起きないかなって思っていた人じゃなかったかな。

しかし、起きてみれば、ワッハッハー、雪が積っているではありませんか。みんな、安心したような。しかし、残念でもあるような変な気分だったと思うよ。

結局、また昼まで吉本さん宅でテレビゲームをやり、昼飯までぶるそうになつて、みんなに、吉本さんの家族の方々に迷惑をかけて帰ったのでした。

しかし、テレビゲームがてきたことと、吉本さん、大塚さんの妹さんを見つけたのは、大なる収穫でした。

しかし、あのとき少し急地を登って走ったほうが良かったんじゃないかなあな人と思ったりして……

おわり

